

基本的な目標(重点目標)設定の考え方①

資料 9

【課題】

少子・高齢化の影響

ギャップの把握

【将来のまちの姿】

子どもがたくさんいて、高齢者が元気に暮らしている

- ①子供の減少により、子育て世代を中心とする生産年齢人口も減少
- ②高齢化の急速な進行により、介護や医療等にかかる社会保障費は今後一層増大
- ③このことから、中長期における本市の財政状況は、一段と厳しさを増していく
- ④高齢化が進む地域では、空き家・空き地の増加による都市環境の低下＝“安全・安心の阻害”，店舗などの生活サービス施設の減少＝“利便性の低下”といった様々な課題が懸念

このギャップを埋める為、将来のまちの姿の実現に向けて基本的な目標(重点目標)を設定

【基本的な目標(重点目標)設定の考え方】

- ・将来人口推計から見た本市の急激な少子高齢化を踏まえ、持続可能かつ活力を維持するまちづくりを進めるためには、子育て世代を中心とする生産年齢人口の維持・定着と、出生率の向上による人口構成バランスの保持が必要となる
- ・子育て環境・教育環境・生活環境等を整備することで、子どもにとっても親にとっても、より魅力あるまちへ
- ・特に教育にあっては、10年先だけではなく、その先の将来を見越した持続可能なまちづくりを左右する要因と考える
- ・全国的に人口減少が進む中にあるには、他都市と競争し人口を奪い合ってまで人口増を目指すのではなく、市民の子々孫々までの定着による人口維持・増加や出生率低下の克服を目指す
- ・長年働き、社会経済を支えてきた高齢者が、元気にセカンドライフを楽しむと同時に、社会活動の一端を担うことで生きがいと充実感を得られる環境が必要
- ・誰もが高齢者になることから、環境づくりとともに生涯に渡って「健康寿命」の延伸を図る仕組みをつくることが重要

基本的な目標(重点目標)設定の考え方②

【課題】

- ・地域を支える力の低下
- ・県北西部の中心都市としての魅力・吸引力の低下
- ・市内での地域特性の違い

ギャップの把握

- ①地域組織への加入者数・加入率は年々減少傾向
- ②地域活動を支える中心的な役割や調整役を担う人材が不足
- ③中心市街地の歩行者通行量や柏駅の乗客数、年間小売販売額も減少傾向
- ④他市には無い個々に輝く地域資源や魅力が効果的に活用・発信されていない。

【将来のまちの姿】

- ・市内外の多くの人がこの地域に目を向けて、様々な活動に参加している人がいて、地域が盛り上がっている
- ・柏のまちからは、「とても元気」という印象を受ける
- ・各地域の住んでいる人や地域資源の特性や魅力が活かされたまちになっている

このギャップを埋める為、将来のまちの姿の実現に向けて基本的な目標(重点目標)を設定

【基本的な目標(重点目標)設定の考え方】

- ・市内外の子どもから高齢者にいたるまで、多くの人を楽しめる魅力があり、人や企業が集う、県北西部を牽引するまちを目指す
- ・地域資源の特性や魅力を活かし、まちの賑わいと相乗効果により、交流人口及び来街者増加による活性化するまちづくりを進める
- ・人が行き交うだけでなく、定住人口及び消費行動の増加につなげるためには、まちの個性を確立し、柏を選ぶという行動に到達させる